

明朝体

開いたままの頁の上で文字がひからびていた 眠りにつく前まで遜色なく紙面に張り付いていたはずなのに と思いをかけてみた 反応はないがその息に押されて いくつかの文字が寄る辺なく浮いた ひからびた文字を指でつまみ 手のひらにのせて拵げてみるが 何の文字だか読み取ることはできない 試しに水をたらししてみると 静かに手足を伸ばしながら姿を現した 笑 そうして一文字一文字蘇らせ コップの中に泳がせてみた

の 湖

思いのほか上手に泳ぐので
観賞用にしようと思った

が

一時間もすると元気がなくなり
コップの底へ沈澱しはじめた

て、
の

水から出して紙の上にならべ乾かした 伝えたい
意志があるのなら 定位置に勝手に戻るだろうと
思いそのまま放っておいた しばらくすると身震
いした文字がゆっくりと動き出す じっと見てい
ると十分な時間をかけながら ひとつところに集ま
りはじめた 文字と文字が重なり隙間をうめ合い
黒くなってゆく 真っ黒くなった上にさらに文字
と文字が重なり ぼこぼことして悪性の表皮腫み
たいな体になった 衝動的に中指で押し潰すと

微かな力で押し返してきた それを押しさえ込もう
とさらに中指に力を入れた 神経質なピアノスト
の手のように見えたので 一瞬自分の手に見とれ
たが 押し返す力が消えると粘性のある液体が滲
み出てきた 文字にも血液のようなものが流れて
いたのだ 案外冷めた感情でその事実を知る 目
を盗み文字は自ら命を絶とうとしたのか そうと
も知らず蘇生させ 挙句 この手で押し潰してし
まった 取り残された文字は本の中で意味を失い
ながらも 思考の断片をかたどり続けるのだろうか
か 湿った黒い塊をティッシュでつまんで捨てた